

## 【研究報告】

# 専門看護師のコンサルテーションに関する文献検討

山下 彰子<sup>\*1</sup>, 札 埜 和 美<sup>\*2</sup>, 戸 田 由 美 子<sup>\*3</sup>, 植 田 喜 久 子<sup>\*1</sup>

## 【要 旨】

目的：コンサルテーションに関する国内の文献のレビューを行い、コンサルテーションの定義、コンサルタントの役割や能力に関する記述内容を明らかにし、専門看護師教育課程における内容と方法について示唆を得る。  
方法：医中誌 Web 版により、2001～2014年 でキーワードを「コンサルテーション」「専門看護師」で検索し18件の文献を分析対象とした。

結果：コンサルテーションの定義では、Lippitt や Underwood の定義を引用し、専門職が専門職に行う相談でありプロセスや相互作用の用語で説明されていた。コンサルタントの役割では、【客観的観察者となり状況を分析する】【問題を解決するために具体的に方略を提示する】など12カテゴリーが明らかになった。コンサルタントの能力では、【問題の本質を見極め、対応する】【エンパワメントを行う】など9カテゴリーが明らかになった。

結論：臨床場面での個人や集団、組織を対象としたコンサルテーション能力の育成の重要性が示唆された。

【キーワード】 専門看護師, コンサルテーション, 能力

## 第I章 はじめに

専門看護師には6つの役割（実践、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究）が求められている。コンサルテーションは、高度実践看護師の重要な役割の1つとして位置づけられている。コンサルテーションは、コンサルタントとコンサルティがともに問題の明確化と問題解決に向かう対等な相互関係のプロセスである（野末ら、2004）。コンサルテーションは、看護職が日常的なケアで直面する困難に対応する能力を高めるために有効であり、コンサルティである看護師が自立して問題解決できるように関わる必要があるため、専門看護師自身の能力が必要となる。しかし、専門看護師教育課程におけるコンサルテーション論の教育内容や教育方法は、各大学院および授業科目担当者の自由裁量であり、95大学院の「コンサルテーション論」のシラバス分析の結果では、各大学院が様々な内容や方法で行っている。そのため、どの内容や方法がコンサルタントの能力や役割を体得するために適切であるか、という点については一定の知見には至っていないのが現状である。

そこで、コンサルテーションについて、定義や方法、コンサルタントとしての役割と能力を明確にす

ることを目的として文献検討を行うこととした。

## 第II章 研究目的

コンサルテーションに関する研究論文における、コンサルテーションの定義、タイプやモデル、コンサルタントの役割や能力に関する記述内容を明らかにし、専門看護師教育課程における教育内容と方法について示唆を得る。

## 第III章 文献検討の方法

### 1. 対象

医中誌 Web（2001～2014年）を用いて、検索条件は原著論文、キーワードを「コンサルテーション」と「専門看護師」で AND 検索し99件の文献を吟味した結果、18件を分析対象とした。

### 2. 分析方法

コンサルテーションの定義、コンサルテーションの方法・タイプやモデル、コンサルタントの役割と能力に関する記述を原文のまま抽出し、類似性・相違性により質的帰納的に分析した。コード、サブカテゴリー、カテゴリー化した。複数の研究者で分析し厳密性の確保に努めた。

\* 1 日本赤十字広島看護大学

\* 2 広島赤十字・原爆病院

\* 3 愛知県立大学

### 3. 用語の定義

コンサルタントとは、専門看護師として認定され、依頼を受けてコンサルテーションを実施している高度実践看護師である。

コンサルティとは、専門看護師に相談を依頼する看護師などの医療専門職である。

## 第IV章 結 果

### 1. 18件の研究論文の検討結果

今回、分析対象とした文献は、分野として、がん・精神看護分野が4件ずつと最も多く、慢性疾患看護2件、小児・母性・家族看護分野がそれぞれ1件ずつであった。分野が特定されていない文献は3件であった。年代の特徴としては、2004年と2010年が3件と最も多かったが、2007～2008年を除き毎年1～2件ずつ報告されており、ばらつきはみられなかった。

これらを、定義、タイプとモデル、役割、能力にわけて結果を述べる。なお、カテゴリーは【】、サブカテゴリーは〈〉で示す。

#### 1) コンサルテーションの定義

定義は、問題を解決したり変化を起こすことができるように、当事者やグループを手助けするプロセス（安田，2006）や、専門職間で行われるコミュニケーションのプロセス（鈴木，武守，渡辺，2003）と述べられており、専門家であるコンサルタントが、専門家であるコンサルティから相談を受け、コンサルティが問題解決できるよう知識や技術を提供し内外の資源を用いた援助過程であった。さらに、コンサルタントは複雑な問題を解決したり、ケアする者の意欲や自律性を促進することに貢献しているなど、コンサルテーションによりコンサルタントがコンサルティを援助する過程において、コンサルティの抱く力やモチベーションなどを引き出していることも示されていた。

引用文献としては、板野（2002）はLippitt and Lippitt（1986）、小林（2013）はUnderwood（1995）の定義を活用しており、専門職が専門職に行う相談であり、プロセスや相互作用の用語で説明されていた。

#### 2) コンサルテーションのタイプとモデル

タイプでは、課題適応型やプロセス適応型であった。プロセス適応型が7件と最も多かった。

モデルは、コンサルティ中心のケースコンサルテーションが6件、コンサルタント中心のケースコンサルテーションが4件活用されていた。1件は、複数のモデルを合わせて活用していた。

### 3) コンサルタントの役割

役割は、【客観的観察者となり状況を分析する】、【問題を解決するために具体的に方略を提示する】、【情報のスペシャリストである】、【援助関係を形成する】、【メンタルヘルス支援を行う】、【教育する】、【協働し連携を図る】、【擁護者となり倫理調整を行う】、【看護者、分析者、知識・技術の専門家となる】、【変革者となる】、【研究する】の11のカテゴリーが抽出された（表1）。

【客観的観察者となり状況を分析する】とは、様々な問題や状況を、客観的観察者として分析することである。これは、〈客観的な観察者となる〉、〈問題を明確化する〉、〈構造をアセスメントする〉、〈現状を分析する〉の4つのサブカテゴリーが含まれていた。コンサルタントは、客観的観察者、事実の発見者となることでコンサルティの取り巻く環境など問題を明確化し、さらに問題状況を照らし合わせて現状を分析していた。

【問題を解決するために具体的に方略を提示する】とは、問題解決のために、具体的なケア方法を提示するなど直接ケアを通して解決の方略を提示することである。〈直接ケアを提供する〉、〈特性を踏まえ問題解決につなげる〉、〈具体的な方略を提示する〉の3つのサブカテゴリーが含まれ、コンサルタントは直接ケアを行いながら集団性を踏まえて課題に取り組み、問題解決につなげていた。また、患者や家族、医療チームへの関わり方や具体的なケア方法を提案するなど、方略を提示しコンサルティが具体的に取り組めるようにしていた。

【情報のスペシャリスト】は、様々な情報を収集し適切に活用できる者のことであり、〈専門的知識を提供する〉、〈情報の整理を行う〉、〈情報の共有を促進する〉の3つのサブカテゴリーが含まれる。コンサルタントは、新しい知識や情報を提供し、コンサルティが情報を活用できるように精神力動的な解釈や情報を整理する支援をしていた。

【援助関係を形成する】は、コンサルティとの援助関係を形成することで、〈コンサルティとの関係を形成する〉のサブカテゴリーからなる。導入時に援助関係を形成することや、複数のコンサルティに同時に介入すること、コンサルティ同士のダイナミクスを考慮して介入することなどが含まれていた。

【メンタルヘルス支援を行う】は、看護師の情緒面の支援を行うことやエンパワメントし看護師のメンタルヘルスを支援することで、〈情緒的支援を行う〉と〈エンパワメントを行う〉の2つのサブカテゴリーが含まれていた。看護師が、問題を一人で抱

表1 コンサルタントの役割

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
客観的観察者となり状況を分析する	客観的な観察者となる	客観的な観察者となる
	問題を明確化する	事実の発見者となる コンサルティの取り巻く環境を明確化する
	構造をアセスメントする	組織構造をアセスメントする
	現状を分析する	問題と状況を照らし合わせ分析する
問題を解決するために具体的の方略を提示する	直接ケアを提供する	直接ケアを行う
	特性を踏まえ問題解決につなげる	集団性を踏まえて課題に取り組む 問題解決につなげる
	具体的な方略を提示する	家族へのかかわりの方法を提案する 医療チームへの関わりの方略を提案する 患者へのケア方法を提案する 具体的なケアの方法を提案する
情報のスペシャリストである	専門的知識を提供する	新しい情報を提供する 情報や知識を提供する
	情報の整理を行う	患者の状態の整理を手伝う ナースの感情の整理を手伝う 精神力動的な解釈を行う
	情報の共有を促進する	情報の共有を促進する
援助関係を形成する	コンサルティとの関係を形成する	複数のコンサルティへ同時に介入する 導入時に援助関係を形成する コンサルティ同士のダイナミクスを考慮して介入する
メンタルヘルス支援を行う	情緒的支援を行う	気に掛ける 問題を一人で抱え込ませないようにする ナースのカタルシスをはかる 看護チームへ情緒的支援を行う 看護職に対して Sensitivity Training を行う セルフコントロールに関するサポートを行う
	エンパワメントを行う	ナースの考える機会をつくる ケースを見つめ直し、次に向かう力を支える 行っているケアを保証する ナースが行ったケアを評価する 自己決定する力を尊重する 看護チームのフォローアップを行う 自己洞察力を助ける
教育する	教育を行う	教育を行う スーパービジョンを行う
	思考過程を教育する	体系的な思考過程を教育する
協働し連携を図る	協働・調整する	CNS 同士で協働し役割分担する 相談しつつ補完し合い協働する 他職種と協働・調整する 状況をきめ細かく報告・連絡する
	連携を図る	早期に連携を図る
	資源を活用する	内部エージェントとなりえる人的資源を活用する
擁護者となり倫理調整を行う	擁護者となる	外部コンサルタントのアドボケーターとなる
	倫理調整を行う	倫理調整を行う
看護師、分析者、知識・技術の専門家となる	知識・技術の専門家となる	看護師、分析者、情報・知識の専門家としての役割を持つ
変革者となる	変革者となる	看護ケアの質の向上を含む組織変革を行う
	組織をコンサルテーションする	組織のコンサルテーションを行う
	システム・サポート体制を変える	システムを構築する コンサルティのためにサポート体制を整える
研究する	研究を行う	研究を行う



え込まないよう気をつけ、カタルシスを図りながら、看護チームや看護職に対して情緒的支援やセンシティブトレーニングを行っていた。さらに、看護師がセルフコントロールできるようにサポートを行うなど、情緒的支援を行っていた。さらに、看護師自身に考える機会を作り、ケースを見直しながら看護師が行っているケアを保証することや評価すること、そして、看護師自身の自己決定する力を尊重することや看護チームのフォローアップを行い、自己洞察力を助けるなどエンパワメントを行うなど、看護師のメンタルヘルス支援を行うことであった。

【教育する】は、コンサルティに対する教育を行うことで、〈教育を行う〉、〈思考過程を教育する〉の2つのサブカテゴリーが含まれていた。コンサルタントは、看護師に対して教育やスーパービジョンを行うことや、体系的な思考過程を支援していた。

【協働し連携を図る】とは、他職種と協働しながら連携を図ることで、〈協働・調整する〉、〈連携を図る〉〈資源を活用する〉の3つのサブカテゴリーが含まれる。コンサルタントは、多職種で協働し役割分担することや、内部エージェントとなりえる人的資源を活用するなど、お互いに報告、連絡、相談し補完しあっていた。

【擁護者となり倫理調整を行う】は、コンサルティの擁護者となり、倫理調整を行うことで、〈擁護者となる〉、〈倫理調整を行う〉の2つのサブカテゴリーが含まれており、外部コンサルタントのアドボケーターとなることや倫理調整を行うことが含まれていた。

【看護者、分析者、知識・技術の専門家となる】は、看護者、分析者、知識・技術の専門家としての役割を同時に担うことであった。

【変革者となる】は、組織などの変革者となることで、〈変革者となる〉、〈組織をコンサルテーションする〉、〈システム・サポート体制を変える〉の3つのサブカテゴリーが含まれていた。看護ケアの質の向上を含む組織変革のために組織コンサルテーションを行うことや、システムの構築やコンサルティのためのサポート体制を整えるなどシステムを変えていくことであった。

【研究する】とは、〈研究を行う〉というサブカテゴリーからなっており、コンサルタントには研究を行う役割もあった。

これらの11のカテゴリーから、コンサルタントとして、看護師個人や看護チーム、他職種などの集団、組織などにおいて、関係性を構築しながら状況を分析し問題を解決する役割があることが明らかになっ

た。

#### 4) コンサルタントの能力

能力は、【問題の本質を見極め、対応する】、【必要なデータを集め分析する】、【専門的知識技術を活用する】、【エンパワメントを行う】、【協働し調整する】、【患者権利を擁護する】、【新たな方向性を明らかにする】、【コミュニケーション技術を活用する】、【自己を形成する】の9のカテゴリーが抽出された(表2)。

【問題の本質を見極め、対応する】とは、状況をアセスメントした上でその中にある問題と対応方法を見極め、対応する能力のことで、〈関係性や力量から問題を焦点化しアセスメントする〉、〈問題の本質や対象のニーズを見極める〉、〈具体的な対応方法を見出す〉、〈実践的・情緒的にサポートし状況やニーズに対応する〉、〈リスクを予防しコントロールできる〉の5つのサブカテゴリーが含まれていた。関係性や力量から問題を焦点化しアセスメントするとは、ケアを焦点化することやケアの意図を明確化し、実践能力として強化すべき部分や患者の状態、関係性や力量をアセスメントすること、判断しトリアージすることで、問題の本質を見極め明確化することであった。また、看護ケアや看護管理、対象の状況を理解すること、コンサルティのニーズを見極め、問題解決能力を査定することであった。さらに、患者・家族への具体的な対応方法を知り、看護ケアを見出すことや、ケースマネジメントを行い、看護ケアを組み立てることや、実践的・情緒的なサポートを行い、患者のレベルに応じた看護ケアの提供、コンサルテーションニーズに対応することであった。リスクを予防しコントロールできるとは、二次合併症やリスクを予防しコントロールすることであった。

【必要なデータを集め、分析する】とは、問題解決のために収集した情報や状況から課題を分析し、明確にする能力のことで、〈必要なデータを収集する〉、〈状況判断し決定する〉、〈課題を分析する〉の3つのサブカテゴリーが含まれていた。看護方針や治療方針、患者の病状や経過、見通しなどを確認することで必要なデータを収集し、置かれている状況から最善の治療を判断し決定することであった。さらに、直接ケアの課題と組織上の課題を合わせて分析するなど、課題を分析することであった。

【専門的知識・技術を活用する】とは、組織コンサルテーション技術や理論、EBM (evidence based medicine)、相談者役割などの専門的知識・技術を提供し活用しながら変化を起こすことで、〈組

表2 コンサルタントの能力

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
問題の本質を見極め、 対応する	関係性や力量から問題を焦点化し アセスメントする	ケアを焦点化する 看護ケアの意図を明確化する 実践能力として強化すべき部分をアセスメントする 患者の状態をアセスメントする 関係性や力量をアセスメントする 判断しトリアージできる
	問題の本質や対象のニーズを見極める	看護ケアの状況を捉える 看護管理の状況を捉える 対象の状況を把握する 患者理解を深める コンサルテーションニーズの内容やレベルを査定する 対象のコンサルテーションニーズを見極める
	具体的な対応方法を知り見出す	患者・家族への具体的な対応方法を知る ケア方法を見出す
	実践的・情緒的にサポートし状況やニーズ に対応する	ケースマネジメントを行う 看護ケアを組み立てる 実践的サポートを行う 情緒的サポートを行う 患者のレベルに応じた看護ケアを提供できる コンサルテーションニーズに対応する
	リスクを予防しコントロールできる	二次合併症を予防する リスクをコントロールする
必要なデータを収集 分析する	必要なデータを収集する	看護方針や治療方針を確認する 病状や経過、見通しを確認する
	状況判断し決定する	最善の治療を状況から判断し決定する
	課題を分析する	直接ケアの課題と組織上の課題を合わせて分析する
専門的知識技術を 活用する	組織コンサルテーションの技術を活用する	組織コンサルテーションの技術を活用する
	理論を活用する	理論を活用する
	EBMに基づき評価する	EBMに基づき問題や治療・看護を評価する
	専門的知識技術を提供する	知識技術が精通する
	コンサルタントとしての役割をとる	ケアを相談する 管理運営の相談をする 相談役割となる
エンパワメントを 行う	変化を起こす	ケアに取り組める変化を起こす
	ケアを保証し評価する	看護ケアを保証する 看護ケアを肯定的に評価する 方向性を承認する 査定を提供する
	看護師や患者・家族の意欲を取り戻す	患者・家族に対するケアへの意欲を取り戻す ケアに取り組む意欲を取り戻す
協働し調整する	チーム間で問題を共有できる	医療チームでの問題共有を行う
	連携や協働を促進する	医療者間の連携や協働を促進する
	協働する	協働する
患者権利を擁護する	他職種と調整する	関係職種を調整する
	資源を見出す	人材サポートのあり方を見出す
新たな方向性を明ら かにする	倫理的視点を持つ	倫理的に考える
	患者権利を擁護する	患者の権利を擁護する
コミュニケーション 技術を有する	計画を立案する	教育計画を見出す
	ガイドラインを作成する	プロトコルガイドラインを作成する
	コミュニケーション技術を有する	特性に応じたコミュニケーション技術
自己を形成する	言語化する	思考を言語化する 言語化し共有する
	意味を解釈する	言葉の主観的意味を解釈する
	自分の限界を知る	自分自身の専門性の限界を知る
	思考を意識化する	思考を意識化する
	変化を恐れないパーソナリティを持つ	変化を恐れないパーソナリティを持つ
	感受性を持つ	家族の言葉を捉える感受性を持つ
	迅速性を持つ	迅速性を持つ
	的確性を持つ	的確性を持つ
	積極性を持つ	積極性を持つ
	柔軟性を持つ	柔軟なコンサルテーションを進める
自己を形成する	体験を分かち合う	体験を分かち合う 看護師へ共感する
	複数の対象へ関われる	複数のコンサルティ集団へ関わる
	関わりや強みを認める	関わりや強みを認める

組織コンサルテーション技術を活用する)、〈理論を活用する)、〈EBMに基づき評価する)、〈専門的知識・技術を提供する)、〈コンサルタントとしての役割をとる)、〈変化を起こす)の6つのサブカテゴリーが含まれていた。コンサルタントは、組織コンサルテーション技術や理論、エビデンスなどの専門的知識・技術を活用し提供していた。さらに、ケアや管理運営などの相談の際に、コンサルタントとしてのあり方などの役割をとることや、ケアに取り組めるように変化を起こすことであった。

【エンパワメントを行う】とは、看護師がケアに対する意欲を取り戻すことができるようエンパワメントすることで、〈ケアを保証し評価する)、〈看護師や患者・家族の意欲を取り戻す)、〈チーム間で問題を共有できる)の3つのサブカテゴリーが含まれていた。コンサルタントは、看護ケアを肯定的に評価し保証すること、ケアの方向性を承認し新たな選択肢を提供するなど、変化を支援する能力を必要としていた。ケアに対する看護師や患者・家族の意欲を取り戻すことや、医療チーム間で問題を共有することで看護師をエンパワメントしていた。

【協働し調整する】とは、他職種と連携、協働しながら調整する能力のことで、〈連携や協働を促進する)、〈協働する)、〈他職種と調整する)、〈資源を見出す)の4つのサブカテゴリーが含まれていた。コンサルタントは、医療者間の連携や協働を促進することや自ら協働すること、また関係する他職種と調整しながら人材サポートのあり方などの資源を見出すなど、コンサルテーションが円滑に行える能力を有していた。

【患者権利を擁護する】とは、倫理的視点を持ち患者の権利を擁護する能力のことである。この中には、〈倫理的視点をもつ)、〈患者権利を擁護する)の2つのサブカテゴリーが含まれており、事象を倫理的視点で考え、常に患者のアドボケーターとしての役割を担う能力が必要とされていた。

【新たな方向性を明らかにする】とは、新たに企画を立案・作成するなど、進む方向性を明らかにする能力のことで、〈計画を立案する)、〈ガイドラインを作成する)の2つのサブカテゴリーが含まれており、教育計画を立案することや、プロトコルやガイドラインを作成することであった。

【コミュニケーション技術を有する】とは、コミュニケーションにおいて相互作用を形成する能力のことで、〈コミュニケーション技術を有する)、〈言語化する)、〈意味を解釈する)の3つのサブカテゴリーが含まれている。コンサルタントは、コンサルティ

の特性に応じたコミュニケーション技術を有し、思考を言語化することや、言語化した思考を他者と共有すること、言葉の主観的意味を解釈していた。

【自己を形成する】とは、自己を理解し形成していくコンサルタントの基本的態度のことである。この中には、〈自己の限界を知る)、〈思考を意識化する)、〈変化を恐れないパーソナリティを持つ)、〈感受性を持つ)、〈迅速性を持つ)、〈的確性を持つ)、〈積極性を持つ)、〈柔軟性を持つ)、〈体験を分かち合う)、〈複数の対象へ関われる)、〈関わりや強みを認める)の11のサブカテゴリーが含まれていた。コンサルタントは、自己の限界を知るといふ、自分自身の専門性の限界を自覚し、相手に思いを伝えるために思考を意識化すること、変化を恐れないパーソナリティを持っていた。また、家族の言葉を捉える感受性を持つこと、迅速性や的確性、コンサルテーションのプロセスにおいて柔軟性と積極性を持ち合わせていた。さらに、看護師と体験を分かち合うことや、複数のコンサルティ集団への関わることであった。また、自己の関わりや強みを認知することでもあった。

これらの9カテゴリーから、個人、集団にあるコンサルティをエンパワメントし、コンサルティ自身が問題解決できるよう様々な技術を用いて関わりと同時に、コンサルタント自身の向き合う能力が必要であることが明らかになった。

## 第V章 考 察

### 1. コンサルタントの役割

コンサルタントは、得られた情報と自己の専門的知識を活用し、コンサルティがおかれた現状を〈客観的な観察者となる)など客観的に分析した上でコンサルティとともに問題を解決するために具体的の方略を提示していた。さらに、問題解決にあたり、コンサルティの〈情緒的支援を行う)ことやエンパワメントしコンサルティを擁護するなど、まさにエキスパートとしての役割が求められていた。そして、【変革者となる】など、まさに専門看護師が求められている6つの役割が含まれていた。

コンサルタントは、コンサルティが相談をする、ということに対して躊躇していることを念頭に入れておく必要がある。コンサルタントはコンサルティが問題を抱え看護実践に自信が持てないことを理解し、コンサルティの緊張や不安を緩和することで問題を一人で抱え込ませないようにすることが重要である。

エンパワメントとは、相手の内なる力、モチベーションや意思を引き出すコミュニケーション技術で



ある（米川，2002，p.87）。専門看護師は，コミュニケーション技術を用いてコンサルティである看護師が自己を認知し，自己効力感を高めることを支援するなど，コンサルティの自己決定を尊重し心理的サポートを行うことや，コンサルティを擁護するなどの役割が必要である。

また，専門看護師はエビデンスである研究成果と臨床をつなぐ役割があり，状況に応じて研究を応用し，個別性の高い看護実践を可能にしている（井部，2015）。これらの成果は患者を取り巻くシステムの変革や看護師の能力の向上を可能にしている。本研究においても，コンサルタントである専門看護師は，【変革者となる】ことや，【研究者となる】などの役割が明らかとなっており，組織や集団を変革していくことが求められている。また，変革するためには組織やシステムの分析が必要であり，常に俯瞰的に物事を捉え，見直す視点を持つことが重要である。

## 2. コンサルタントの能力

コンサルタントに必要な能力として，【問題の本質を見極め，対応する】などの問題解決能力や倫理調整能力，【エンパワメントを行う】などのコミュニケーション能力が必要である。

看護ケアの自己承認には，自分自身の判断に裏打ちされた看護実践能力を高めることが重要である。その効果は，患者からの直接のフィードバックや同僚や上司による承認により自己への看護実践の承認を高めていき，信念を育てる（平瀬，尾原，2007）。また，看護観に沿った看護ケアを実践し，揺らぎながらも成功体験を積み重ねることで看護観が堅固なものへとなる（畑中，伊藤，2016）。これらのことから，自己の看護実践を承認し，看護観を発展させることで，エンパワメントでき，より質の高い看護ケアへとつながるといえる。

さらに，コンサルタントが自己について理解すること，自己のあり方や関わり方，感受性や迅速性，柔軟性などのパーソナリティが重要であり，【自己を形成する】能力が必要不可欠であるといえる。コンサルタントは，自己の専門性の限界を知ること，自分自身の弱みと強みを客観的に理解している。専門看護師の志向は，高い自発性や自律性だけでなく，よりよくできるという固い意志や執念をもって遂行されている。さらに，専門看護師の思考と実践の基盤には，専門看護師が備えるゆるぎない知識や専門分野への高いモチベーションがある（井部，2015）。固い意志や執念，高いモチベーションを保持するためにも，専門看護師はコンサルタントとして，多様な考え方や自己を形成する能力が重要であるといえ

る。

## 3. 教育内容と方法への示唆

コンサルテーションの教育内容への示唆として，コンサルタントが問題の本質を見極め分析する能力や専門的知識技術，コミュニケーション技術に加え，コンサルタントの自己形成能力を育成する必要がある。さらに，個人や集団，組織など多様な場面でのコンサルテーション能力の育成の重要性が示唆された。

コンサルテーションでは，コンサルタントである専門看護師は，観察者となり，コンサルティと対話をしながら情報収集を行い，コンサルティとともに問題解決を行う。同時に，コンサルタントは，コンサルティをエンパワメントしたり，権利擁護を行ったりするなどエキスパートとしての役割や能力を必要としていた。また専門看護師はコンサルテーションにおいて，個人，集団，組織が対象であることにより，多面的な情報収集の方法や組織分析力を必要としていた。また，コンサルタントは自己を理解すること，自己のあり方や関わり方を内省すること，そして，感受性や迅速性，柔軟性，変化を恐れないなど，自己を変革し形成する能力を育むことが必要であった。

専門看護師教育課程の授業科目「コンサルテーション論」の目的は，文献学習と演習を組み合わせることで理解を深めることである。内容では，基礎知識としてコンサルテーションの定義，タイプとモデル，コンサルテーションにおける問題解決過程と評価，援助となるコミュニケーションの探求，自己内省の目的や方法など文献購読を行い学習する。目標は，「コンサルタントとして人を援助するとはどういうことか」を学習することである。

コンサルテーション能力は，専門看護師教育過程におけるあらゆる学習が関与した総合的な能力であり，生涯にわたる専門看護師の活動を通して体得していくことである。

これらのことから，コンサルタントが必要とされる能力を獲得するためには，教育方法として，著書や文献による学習に加え，様々な領域の専門看護師による講義・演習が必要である。演習では専門看護師のコンサルテーション事例や，学生間でのロールプレイを通して，臨床におけるコンサルテーションプロセスや体験により学ぶことの意味を理解するなど，臨床に密着した方法でコンサルテーションを体得する必要がある。

## 第VI章 結 論

1. コンサルタントの役割では、コンサルタントは、コンサルティが抱える問題を俯瞰的に捉え課題を明確化し、コンサルティの心理的サポートを行っていた。さらに、変革者となり、組織や集団の組織分析を行った上で、変化を恐れず見直す視点を持っていた。
2. コンサルタントの能力では、コンサルタントは、物事の本質を見極め、コンサルティをエンパワメントする能力や自己をコントロールする能力が必要であった。
3. コンサルテーションの教育内容・方法では、コンサルタントが必要とされる能力を獲得するために、文献による学習に加え、様々な領域の専門看護師による事例検討や学生間でのロールプレイなど、臨床に密着した実践方法で体得する必要があることが示唆された。

## 謝 辞

本研究は、平成26年度「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究」の助成を受けて実施した。また、本研究の一部を第3回日本CNS看護学会において発表した。

## 文 献

- 畑中純子, 伊藤 收 (2016). 看護観が体験から発展するまでの看護師の施行のプロセス. 日本看護科学会誌, 36, 163-171.
- 平瀬節子, 尾原喜美子 (2007). キャリア中期における看護師の「看護実践の承認」. 高知大学看護学会誌, 1(1), 31-40.

- 井部俊子 (2015). 専門看護師の思考と実践の特徴. 大生定義 (監修), 専門看護師の思考と実践 (p.173). 医学書院.
- 板野優子 (2002). 病院における組織コンサルテーションの効果について 看護師の離職率を下げるためのコンサルテーションを通して. 日本看護管理学会誌, 6(1), 37-46.
- 小林みゆき (2013). 精神科病棟における看護実践支援のためのコンサルテーションのプロセスと技法 境界性パーソナリティ障害患者およびうつ病の看護へのコンサルティ中心のケースコンサルテーションを通して. 日本精神保健看護学会誌, 22(1), 59-70.
- Lippitt, G., Lippitt, R. (1986). The consulting process in action 2nd ed. San Diego, Calif. : University Associates.
- 野末聖香, 宇佐美しおり, 福田紀子, 片平好重, 若狭紅子, 釜英介, 早川昌子, 岡谷恵子 (2004). 精神看護専門看護師によるコンサルテーションの効果. 看護, 56(3), 70-75.
- 鈴木和子, 武守晴子, 渡辺裕子 (2003). 家族看護に関するコンサルテーションのプロセスとその特質. 家族看護学研究, 9(1), 10-17.
- Underwood, P.R. (1995). コンサルテーションの概要 - コンサルタントの立場から -. インターナショナルナーシングレビュー, 18(5), 4-12.
- 安田妙子 (2006). 精神看護専門看護師のコンサルテーションにおける援助内容 - ナースへのインタビュー調査から. 精神科看護, 33(1), 49-56.
- 米川和夫 (2002). エンパワメント. 東京図書出版会.



# Literature review of consultations by certified nurse specialist

Akiko YAMASHITA <sup>\*1</sup>, Kazumi FUDANO <sup>\*2</sup>, Yumiko TODA <sup>\*3</sup>, Kikuko UEDA <sup>\*1</sup>

## Abstract:

Objective: We conducted a literature review of domestic publications on consultations by certified nurse specialist, and clarified the definition of consultations and the roles and abilities of consultants, in order to obtain methods and details that would contribute to the development of educational curricula for certified nurse specialist.

Methods: The Ichushi Web was used to search for studies published between 2001-2014 using the keywords “consultation” and “certified nurse specialist.” A total of 18 publications were identified and analyzed in this study.

Results: By referencing Lippitt’s and Underwood’s definitions of “consultation,” “consultation” was explained as a term that reflects discussions among specialists, as well as the associated processes and interactions. With regard to consultant roles, 12 categories were extracted, including [become an objective observer and analyze the situation] and [provide a specific plan to solve the problem]. For consultant abilities, 9 categories were extracted, including [identify the essence of the problem and address it] and [perform empowerment].

Conclusions: Our findings suggest the importance of fostering consultation abilities that target individuals, groups, and organizations in clinical settings.

## Keywords:

certified nursing specialist, consultations, abilities

---

\* 1 Japanese Red Cross Hiroshima College of Nursing

\* 2 Hiroshima Red Cross Hospital & Atomic-bomb Survivors Hospital

\* 3 Aichi Prefectural University

